実践高校

# スモールステップの個別学習と T•S ポイントで生徒たちの学びの活性化を

中西 毅（なかにし・たけし　和歌山・県立和歌山東高等学校）

## 1．はじめに

本稿においては，「教科書のテキストの読み取りの授業でどんな手法で授業を組み立てているか」を具体的に説明していこうと思っています。キーワードは，①頑張りを目に見える形で点数化する評価方法②個別学習③教材をスモールステップ方式に配置④教え合い，です。

## 2．評価方法について

具体的な授業の進め方の説明に入る前に，評点をどう付けているかを説明します。成績評点における，定期テストの点数と平常点の割合は7対3です。日々の授業の平常点の付けかたは，以下に示すように，「その日すべきタスク」をいくつこなしたかによって点数を付けています。さらに早く終わった生徒たちのために「加点ポイント制度」も取り入れています。

勉強の苦手な生徒たちも，毎回の授業に出て，タスクをしっかりこなしていけば平常点で満点をとることも十分可能です。そうなれば，定期テストの点数に関わらず，平常点だけで単位修得の合格点である30点を確保することができます。

とにかく生徒が頑張れば頑張った分を直接点数化することで，少しでも授業中に達成感を持ってもらえるよう心がけています。

## 3．具体的な授業の進め方

教室に入ると，まず黒板に以下のような板書を書き込みます。

全員がすべきタスク
①「名曲のサビのリズム読みテスト」合格
②「教科書本文の書写タスク」
③「教科書本文の和訳プリント」合格
④「教科書本文の暗唱テスト」合格

ボーナスタスク
Tポイント・Sポイント

生徒たちは，それぞれのペースで各タスクに取り組み，一つのタスクが終わるごとに私の点検を受け，合格すれば次のタスクに進むというスモールステップ型の個人学習スタイルをとっています。授業中に立ち歩いて友人と協力して取り組んだり，わからないところを聞きに行ったりすることは許可しています。むしろ「奨励している」といった方が正確です。

そして④まで突破した生徒は，黒板に設けた「小先生」という欄に名前を書いていきます。加点ポイントを獲得すれば名前の横に○を足していきます。

それぞれのタスクがどんな内容か，以下具体的に説明します。

### ① 名曲のサビのリズム読み

最初に前で私が「今日の名曲」のリズム読みの手本を見せます。その後，生徒たちにその歌詞を書いたプリントを自分で取りに来るよう指示します。

歌詞はすべて読み仮名が振ってあり，さらに音の強弱を表す記号もつけてあります。

「リズム読みテスト」に合格しないと次のプリントにいけないことにしていますが，リズム読みや声を出すのが苦手な生徒には，「歌詞の書き写し」を代替タスクとして認めています。

選曲は私の独断と偏見であったり，生徒からリクエストを取ったりしています。また，『レ・ミゼラブル』や『ボヘミアン・ラプソディ』などの映像作品を見せたクラスでは，映画の中にでてきた名曲を選んだりしています。

### ② 教科書の英文の書写

名曲サビリズム読みテストに合格した生徒たちには，単語間のスペースをわざと詰めて書いた教科書の本文のプリントを用意しています。それを正しく切り離して書写するタスクです。教科書を見ながら

やる生徒もいれば，自分で考えて切り離している生徒もいます。

**③ 教科書英文の和訳プリント**

書写タスクが済んだ生徒は，次に以下のような教科書和訳プリントに取り組みます。普段は教科書の本文をもとに作りますが，以下は一例としてあげているものです。

氏名（　　）

[From ants] [to elephants],
every animal (has) a place
[in the circle [of life]].
His place (was) king [of the animals].
She (was) the queen.

1 from 前 ～から
ant(s) 名 あり
to 前 ～まで
elephant(s) 名 ゾウ
2 every 代 すべて
animal 名 動物
has 動 (have) 持つ
place 名 場所，役割
in 前 ～の中で
circle 名 輪
of 前 ～の
life 名 いのち
3 his 代 彼の
was 動 (be 過去) ある
king 名 王
4 she 代 彼女
queen 名 女王

<問1> 英語の語順に沿って穴埋めしなさい。

1 [～から＿＿＿＿＿＿] [～まで＿＿＿＿＿＿]

2 ＿＿＿＿＿＿ (　　) ＿＿＿＿

[～の中で＿＿＿＿＿ [～の＿＿＿＿＿＿＿]]

3 ＿＿＿＿ (あった) ＿＿ [～の＿＿＿＿＿＿＿]

4 ＿＿＿＿ (あった) ＿＿＿＿

<問2> 立ち止まり訳をしなさい。

1 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

この記号付けプリントについては，JAASET，寺島隆吉他著（2001）『魔法の英語　ふしぎなくらいに英語がわかる練習帖』（あすなろ社）を参考に作成しています。動詞には〇をつけ，句や節は［　　］でくくるなどの記号を付けて英文を解釈していこうというプリントです。いわゆる「寺島メソッド記号付けプリント」です。

単語の意味はすべて書いてあって，まずは英語の順番のまま各単語の意味を日本語に変えます。その次に「立ち止まり訳」に取り組みます。これは一文一文をわかりやすい日本語に書き直すタスクです。

単語の意味がすべて書かれてあるので，生徒にとって勉強にならないのでは？ という声もあるかと思いますが，生徒は意味を知らない単語だけ横のヒントを見て，知っている単語は何も見ないで意味を書き込むことで学べているようです。「今日の新出単語」などと教員が先んじて説明するよりも，こんな風に，それぞれの生徒が自分の知らない単語だけ覚える方が効率的だと思います。

同僚の先生からは，「授業ごとにこんなプリントを作るのは大変ではないですか？」などと言われますが，慣れてくるとそんなに時間を書けずに作成できます。授業中に生徒にいちいち単語の説明をしなくていい分，こちらの方が精神的負担は少ないです。

単語の意味がすべて書いてあるので一見簡単そうに見えます。しかし，生徒たちはなかなか苦労しています。〈問1〉の時点で，英文を下に書いてある記号にあわせて日本語に直す際に，書く欄を間違うことも多いです。このタスクには「目の訓練」という意味合いもあります。

さらに，生徒たちが苦戦しているのは〈問2〉です。〈問1〉の「片言日本語」をわかりやすい日本語に置き換える際，語順を変えたり，格助詞を補ったりしないといけないのですが，そこで間違うことが多いです。「英語は〇（動詞）を最後に訳すとうまくいくで」「〇（動詞）の前が“～が”で，後ろを“～を”にすればええんやで」「［　　］は前につなげて訳すとうまくいくで」などと，間違った生徒には，日本語と英語の違いを意識させる声かけをしています。

ただしこのプリントの最終目標は，「意味の通るきれいな日本語訳ができるようになること」ではありません。〈問1〉レベルの理解で，音や文字による英文情報を直解できるようになること，さらには母語に置き換えることなく，英文情報を英語のまま直解できるようになることこそが最終目的です。

**④ 教科書英文の暗唱テスト**

和訳プリントに合格した生徒が次に挑戦するのが「本文の暗記テスト」です。上記の和訳プリントの〈問1〉の解答の日本語を見ながら，もとの英文を再現して音読できるかのテストです。

狙いは，「暗記することで達成感を得てほしい」ということです。しかし本当の狙いは，別のところにあります。一つは音読により英語のリズムをつかんでほしいこと。もう一つは日本語と英語の語順の違いを体得してもらうことです。

最近は生徒たちも慣れてきて，「最終目標は本文の

暗記である」ことを意識しながら，タスク２の書写や，タスク３の和訳プリントに取り組んでいる生徒も徐々に増えてきたようです。

時間が余って余裕のある生徒にはボーナスタスクとして，「暗写（日本語訳だけ見て本文の英文をかけるか）」テストに挑戦させるときもあります。

**Ｔポイントと Ｓポイント**

４つめのタスクまで合格した生徒たちには，「小先生」の称号を与え，黒板に板書します。この「小先生」たちが，まだタスクを終了していないクラスメートのサポートに回り，その生徒たちがゴールする手助けをすれば，加点ポイントを贈呈します。Teacher's Point なので「Ｔポイント」と呼んでいます。ただしサポートしてもらった方の生徒たちには，教える方の生徒に教える機会を与えたということで，「Student's Point ＝ Ｓポイント」を贈呈します。

私一人が生徒全員のテストをするのは大変ですが，この制度により，より多くの生徒が学びに参加できているようです。

## ４．上手くいっていることと改善が必要なこと

**上手くいっていること**

この授業形態では，授業中寝る生徒はほとんどいません。退屈な教師の解説をすべて聞かずに，わからないところだけ質問できるのが生徒には嬉しいようです。また，授業中に何をすれば評価されるか，どこまですればいいかがあらかじめわかっているので，目標を持ちやすいようです。さらに堅苦しくない雰囲気なので，クラスメートたちとわいわい楽しそうに学んでいる姿もよく目にします。授業内で複数回，すべての生徒とやりとりする機会がありますので，私にとっても一人ひとりの生徒との人間関係を構築する上でとても有意義なスタイルになっていると思います。

**改善が必要なところ**

今のスタイルだと，生徒が自分の思いを英語や日本語で発信する機会がありません。また教え合いは見受けられますが，チームで協力して何かを作り上げるようなプロジェクト的な学習の機会も与えられていません。さらに，文章の構造を読み解くなどみんなで意見を出し合って深める場面が少なく，活動だけに終始してしまっています。

ですので，今のスタイルが定着して，生徒たちの学びが落ち着いてきたところで，以下のようなタスクも入れていきたいと考えています。

（1）教科書の本文を少し変えて，自分たちの学校や地域を紹介する英文を作り，それを映像化する活動。

（2）長い文章を読んで，その文章を４つの部分にわけるならどこで分かれるかを班で話し合う活動。

（3）はじめは日本語で，ゆくゆくは英語で，自らの学習を自分のことばで振り返らせる活動。

また，毎回同じようなスタイルばかりだと，生徒も私も飽きがきて学びのモチベーションが下がるときもあるので，意識的に投げ込み教材を入れていくことも視野に入れないといけないと痛感してます。

## ５．生徒一人ひとりに関心をもつこと

本校に通っている生徒の多くは，とにかく自分に対して自信を持てずにいます。そのことが大きな原因となって，人間関係の作り方が苦手となり，生きづらさを感じている生徒も多いです。

「英語なんてできない」と思い込んできた生徒たちに，スモールステップでタスクを配置することにより達成感を味わわせ，自信を回復させることは，生徒の成長にとってもちろん大事なことです。

それと同時に教員が心がけるべきことは，一人ひとりの生徒をかけがえのない存在としてしっかり受け止めることです。

一刻も早く生徒の顔と名前を覚えること。廊下などで会ったときは，「元気か？」などとこちらから声をかけてあげること。担任やクラブ顧問の先生方と個々の生徒の情報を密に共有すること。とにかく一人ひとりの生徒に関心を持ち続けること。

本校に赴任して２年目。授業そのものの改善は当然ですが，このような教員の「側面努力」こそ，生徒の成長と自信回復にとって本当に大事なことだと気づき始めています。

〈参考文献〉
山田保司（編）『半島メソッド英語アクティブ・ラーニング』明石書房，2016